

平成 23 年 12 月 16 日

スポーツ復興支援活動報告レポート

アーセナルレディースとの被災県高校女子サッカー部員との合同練習会

太田 あや子（武蔵丘短期大学）

平成 23 年 12 月 3 日土曜日、東日本大震災後の福島第一原子力発電所事故の警戒区域にある福島県立富岡高等学校女子サッカー部の選手 10 名が、武蔵丘短期大学で開催された「アーセナルレディース」チームとの交流会や練習会に参加し、一流女子サッカー選手との時間を過ごした。アーセナルレディースは女子ワールドカップのイングランド代表を多く輩出している強豪女子サッカーチームで、今回の来日では、『なでしこリーグ』で優勝した澤選手らを擁する「アイナック神戸」や古豪の「日テレ・ベレーザ」とのチャリティーマッチ、交流のある武蔵丘短期大学女子サッカー部との交流会や試合を行、本事業もその一環で開催されたものである。

当日はあいにくの豪雨で、グラウンドでの合同練習会は中止となったが、校内での交流会と、屋外の人工芝のフットサル場でのゲーム形式の練習会が開催された。悪天候の下ではあったが富岡高校の選手たちは、A チームとしてアーセナルレディースコーチからも直接コーチングを受けることができた。体育館での終了式では、緊張も取れ、アーセナルの選手と笑顔でコミュニケーションを取れるようになった。技術レベルは高く、全員が関東関西の強豪大学への進学を希望している。厳しい環境下で練習を積み重ねて 10 名の部員で女子高校サッカー選手権東北代表戦に参加、惜しくも決勝戦で敗退した後であった。「今回の交流会や練習会は、今後もサッカーを継続していくための貴重な経験となった。」という言葉が監督からいただいている。

交流会や練習会には関東の中学高校の女子選手、保護者ら 100 余名が参加し、武蔵丘短期大学のボランティア学生 30 名が運営を補助した。前日の高校生の迎えと宿泊アテンド係として女子サッカー部員 1 年生 2 名、写真やビデオおよび会場係として太田ゼミ女子学生（2 年スポーツ専攻）3 名、その他女子サッカー部員が会場設営と、運営補助を担当した。アテンド係の学生は富岡高校出身ということもあり、宿舎や会場で後輩の面倒をよくみた。久しぶりの恩師との交流もあり、自分とサッカーとの関係を原点に戻って見つめ直す機会となった。ゼミ生は豪雨の中、写真やビデオを撮り記録係として活躍した。また、雨に濡れた高校生がシャワーを浴びられるように準備、後片付けを行った。この企画には保護者やイベント運営会社の社員、報道関係者など多くの参加者がいて、ボランティア学生は女子サッカー愛好者やそれを支える者の存在を知り、今回のイベントの意味を考えることができた。また、人の役に立つことの意義と、参加者の笑顔や「ありがとう」の言葉から運営担当者である学生ボランティア自身が力を得ることを学んだ。



写真1 質問を中心とした交流会



写真2 雨の中での練習会

